



2007

社会・環境報告書

Social & Environmental Report

大日本塗料株式会社

Contents

会社概要	02
トップメッセージ	04
マネジメント	
コーポレート・ガバナンス／内部統制	05
コンプライアンス	06
環境報告	
環境経営の基本方針	07
環境マネジメント	08
環境行動計画と実績	10
環境会計	12
人と環境にやさしい商品の開発	13
事業所における環境保全活動	16
グループ会社の取り組み	22
社会性報告	
お客様との関わり	24
従業員との関わり	26
社会貢献活動	28
環境保全活動の歩み	29

■ 編集方針

当社は、2004年から毎年「環境報告書」を発行しています。今年度は、当社のステークホルダーや本書の読者の皆さまのご関心に応える情報開示をめざし、環境報告書に社会性報告を加えて内容の充実を図りました。また、編集に際しては、環境省「環境報告書ガイドライン2003」を参考にいたしました。

■ 対象組織

国内塗料事業のみ（那須事業所、小牧事業所、鶴見事業所、相模製造所、滋賀製造所および一部の関係会社）

■ 報告対象期間

2006年4月1日～2007年3月31日

● 大日本塗料株式会社

本社 〒554-0012
大阪市此花区西九条六丁目1番124号
TEL 03-6486-6661
FAX 03-6482-0788

お問い合わせ先 環境・品質保証部
TEL 03-6486-6662
FAX 03-6483-1394

ウェブサイト 大日本塗料ホームページ
のご案内 <http://www.dnt.co.jp/>

人と地球に優しい技術、 感性豊かな色彩を提供します。

私たち大日本塗料は、これまで環境や資源を護り、
社会の発展と暮らしの向上に貢献することを願って、
さまざまな製品とサービスをお届けしてきました。
しかし、人類がより良い生活を求めた代償として、地球温暖化、
大気汚染などの環境変化が顕著となった今、
私たちは全てのステークホルダーと協調し、
環境保護への取り組みを一層強化しなければなりません。
これからも私たちは、法令の遵守にとどまらず、
環境や安全、健康への配慮が行き届いた
企業活動を希求してまいります。



大日本塗料グループは、当社、子会社39社及び関連会社10社で構成され、塗料、蛍光色材及び照明機器の製造販売を主な事業領域とし、さらに各事業に関連する物流、その他のサービスを含めた事業活動を展開しています。

会社概要 (平成19年3月末日現在)

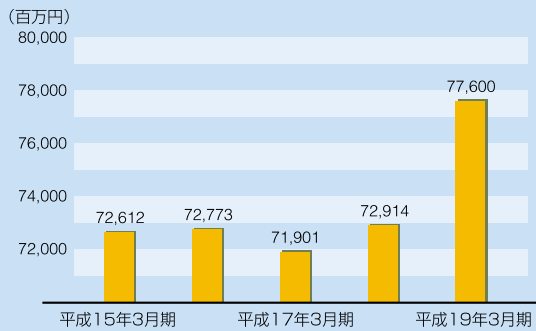
商号	大日本塗料株式会社
本社	大阪市此花区西九条6-1-124
設立	昭和4年7月25日
資本金	88億2千7百万円
代表者	代表取締役社長 山下 文隆
従業員数	691名
決算期	3月31日
事業内容	各種塗料の製造販売、塗装機器装置の販売、塗装工事、その他

当社グループの主な事業内容と従業員数

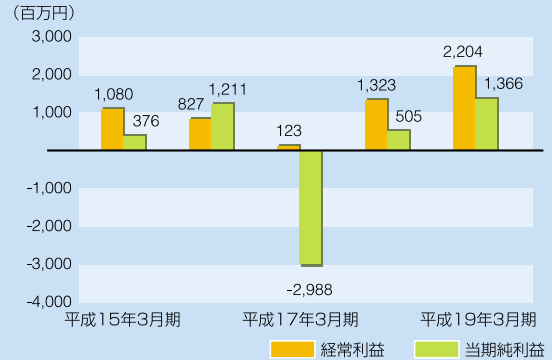
塗料事業 (1,523名)	当社のほか 国内製造系子会社・関連会社 13社、 同販売系子会社・関連会社 16社、 および海外子会社・関連会社 9社
蛍光色材事業 (53名)	シンロイヒ(株)
照明機器事業 (244名)	ニッポ電機(株)および子会社3社
その他事業 (101名)	子会社6社

財務ハイライト

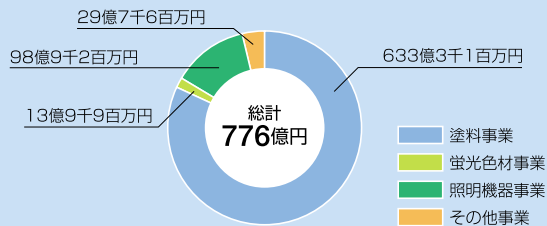
■ 連結売上高



■ 連結経常利益・当期純利益



■ 連結事業部門別売上構成比 (平成19年3月期)



注) 平成17年3月期の当期純損失29億8千8百万円は、主として同年度からスタートした中期経営改善計画(3カ年計画)に基づいて実施した事業構造改善諸施策による特別損失49億4千9百万円を計上したことによるものであります。

当社国内ネットワーク



本社・大阪事業所(営業・技術)



那須事業所(工場・研究所)



小牧事業所(工場・研究所)



鶴見事業所(研究所)



- 本社・大阪事業所／大阪市此花区
- 那須事業所／栃木県大田原市
- 小牧事業所／愛知県小牧市
- 鶴見事業所／大阪市鶴見区
- 東京営業本部／東京都大田区
- 東日本販売部
札幌営業所・仙台営業所・北関東営業所・
埼玉営業所・東京営業所・新潟営業所・
長野営業所・千葉営業所・神奈川営業所・
静岡営業所
- 西日本販売部
名古屋営業所・富山営業所・大阪営業所・
京滋営業所・神戸営業所・岡山営業所・
広島営業所・高松営業所・福岡営業所・
長崎営業所
- 工場
那須工場・小牧工場
滋賀製造所・相模製造所
- その他
カラーセンター・塗装技術センター

海外ネットワーク



Thai DNT Paint Manufacturing Co., Ltd.



Dai Nippon Toryo Mexicana S.A.DE C.V.

海外子会社・関連会社

- DNT Singapore Pte., Ltd. (シンガポール)
・ Penjurong Plant
・ Tuas Plant
- Thai DNT Paint Mfg. Co., Ltd. (タイ)
・ Head office
・ Branch Office
- DNT Paint (Malaysia) Sdn. Bhd. (マレーシア)
- PT.DNT Indonesia (インドネシア)
- New Tanabe Chemical (Shanghai) Co., Ltd. (上海)

- Dai Nippon Toryo Mexicana S.A.DE C.V. (メキシコ)

業務提携先

- Hempel's Marine Paints A/S (デンマーク)

技術提携先

- 台陽塗料建材股份有限公司 (台湾)
- PT.Tunggal Djaja Indah (インドネシア)
- PPG Coatings (Malaysia) Sdn. Bhd. (マレーシア)

- Asian PPG Industries Ltd. (インド)
- Ashland Chemical Co. (米国)
- PPG Industries, Inc / Keeler & Long (米国)
- Valspar Co. (米国)
- The Sherwin Williams Co. (米国)
- The Magni Group Inc. (米国)
- Karl Wörwag Lack-und Farbenfabrik GmbH & Co. KG (ドイツ)



代表取締役社長

山下 文隆

地球の環境、社会と暮らしに調和した事業活動に取り組みます

私たちは、人類をはじめ、多くの動物や植物を育む豊かな地球の環境資源を思いのままに利用してきました。このことが環境への負荷を増やし地球温暖化などの影響を及ぼすことになりました。私たちはこのことを謙虚に、そして大きな問題意識を持って受けとめなければならぬと思います。

もはや地球環境の保全は緊急の課題となっており、それに全力を挙げて取り組むことは、すぐれた業績をあげることと同じように、企業としての重要な責務であると考えます。

このような認識のもとに、大日本塗料は人と環境に優しい企業理念をいっそう強固に推進していく決意として、「グリーン宣言」(10頁ご参照)を掲げました。そして、健康で快適な暮らしを実現するために、これまでに培ってきた塗料技術を基本に、多彩で豊富な環境対応ノウハウを全面展開し、事業活動へと直結させることをめざします。

環境を守る先進塗料の開発を加速させます

当社は一貫して塗料製造を基軸とした事業活動を展開し、社会と暮らしのさまざまな場面で彩りと潤いを創出し、総合塗料メーカーとしての地歩を築いてまいりました。中でも、重防食塗料分野では豊富な実績を誇り、日常的な機能維持や外観保全を通じて社会インフラや日々の産業活動を支えています。

一方で、冷房コストの削減や省エネルギー効果に結びつける遮熱塗料、VOC(揮発性有機化合物)を含まず、環境適性がきわめて高い水系塗料、環境にやさしい粉体塗料など、次世代をみつめた先進塗料製品の開発にも積極的に取り組んでいます。

環境・安全・健康に配慮した企業活動に取り組みます

1995年には環境・安全マネジメントシステムであるレスポンシブル・ケアの活動を開始しました。

化学物質は産業活動や日常生活を営む上で欠かすことのできないものですが、取扱いを間違えた場合、それはしばしば人体や自然環境に悪影響を及ぼすことがあります。時によっては回復しがたいような深刻なダメージを与えることも少なくありません。それだけに化学製品を扱うメーカーは、責任ある行動をとることが強く求められます。レスポンシブル・ケアとは、そうした行動を促すための指針であるともいえます。

私たちは塗料という化学製品が社会の発展と快適な暮らしに貢献することを願い、さまざまな製品をお届けしています。しかしながら、化学製品であるがゆえのリスクの発生にも常に留意し、それに備える社内体制を確立しなければなりません。自己責任と自主管理を基本とするレスポンシブル・ケアの精神に則り、今後とも法令の遵守だけにとどまることなく、環境や安全、健康への配慮が行き届いた企業活動に取り組んでまいります。

「環境の世紀」にふさわしい事業活動を推進します

地球の温暖化防止のために全社をあげて取り組むことも、環境への適性を何よりも重視した製品を開発することも、さらには環境の保全・人の安全・健康の確保を重視するレスポンシブル・ケア活動を推進することも、すべては企業としての社会的責任(CSR)とは何か、それをどう認識するかという問題へとつながっていきます。

21世紀は「環境の世紀」とも呼ばれています。環境保全に取り組むことは、そのまま私たち大日本塗料グループにとっての社会的責任を遂行することであり、そのゆるぎない意思の表明であると考えます。

このような私たちの思いを皆さまにお伝えするとともに、持続可能な社会づくりのためにどんな活動を展開しているかを知っていただくために、あらたに「社会・環境報告書」としてまとめました。環境と安全と健康のために日常的に取り組んでいる活動全般について、皆さまのご理解をいただく一助となれば幸いです。

コーポレート・ガバナンス／内部統制

良き企業市民として社会の信頼と期待に応えるため、法令、規範を遵守し、健全で透明性の高い経営を推進します。

コーポレート・ガバナンス体制

大日本塗料グループは、良き企業市民として社会から広く信頼され、親しまれる存在であり続けられるよう、常に健全性と遵法性、透明性の高い経営を推進するコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。株主、顧客、取引先、地域住民、社員などすべてのステークホルダーへの情報公開や説明責任を果たすことはもちろん、経営各層の責任を明確にし、独走や暴走、違法行為をチェック・防止する体制を敷いています。

監督・監査体制は、「取締役会」と「監査役会」が担っています。取締役会は取締役9名で構成し、そのうち1名が社外取締役で、経営の監督にあたっています。また、監査役会は常勤監査役3名、監査役1名の計4名で構成しており、うち2名が社外監査役です。

執行体制では、「執行役員制度」を採用。取締役は経営の迅速化、監督機能の強化などの経営機能に専念し、各部門統括などの業務執行権限は執行役員に委ねて執行責任を明確にしています。

内部統制

大日本塗料グループでは、すべてのステークホルダーの信頼と期待に応え、社会的責任を全うすることを主目的に、グループ全体が効率よく業務を進め、さまざまな課題や目標を達成してより健全な発展を遂げるための仕組みづくりをめざし、「内部統制・業務改革委員会」をスタートしました。

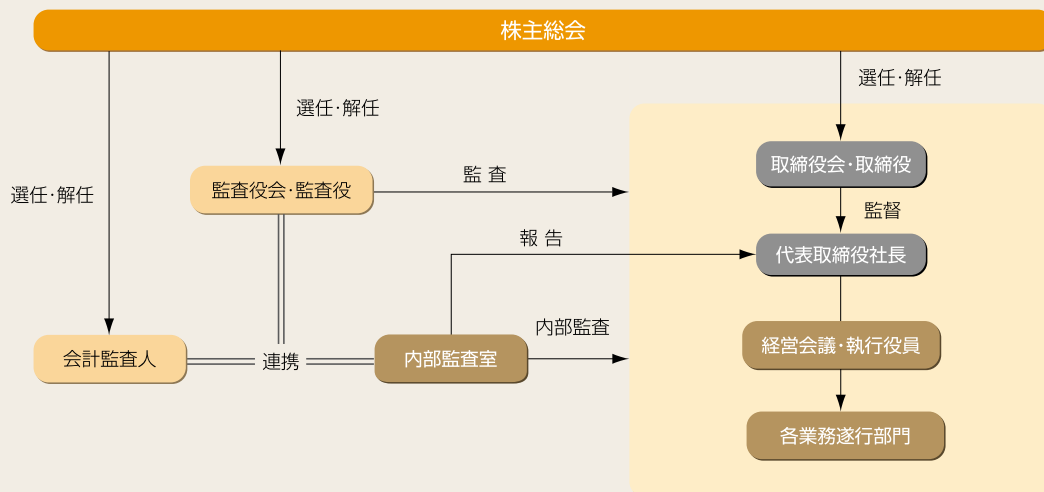
2007年3月には、内部統制の考え方やルールをグループ全体に根付かせ、企業体質を強化するため、『内部統制ハンドブック』を制作、全グループ社員に配布し、日常的に活用しています。

また、内部統制の仕組みが有効に機能しているかを常に確認するため、① 監査役による監査、② 内部監査による監査、③ 職制による監視の3通りのチェックを行っています。



内部統制ハンドブック

コーポレート・ガバナンス体制図



コンプライアンス

コーポレート・ガバナンスを実現する基本として、社員全員がコンプライアンスを徹底してまいります。



コンプライアンス

昨今起きている企業の不祥事の多くがコンプライアンス（法令遵守）違反であり、その背景には「ルールがない」「ルールを守らない」などの企業体質・風土があります。

コンプライアンスとは、広く解釈すれば、法令だけでなく社会モラルや会社の規則を守ることも含まれます。コーポレート・ガバナンスを実現するためには内部統制の基本となる社員全員によるコンプライアンスの徹底が必要であり、それが「内部統制」ひいてはコーポレート・ガバナンスの成否にも影響することになります。

当社は、良き企業市民としての自覚を更に高め、法令遵守はもとより、社会倫理規範に適合したコンプライアンス経営を行うことにより、顧客・社会の信頼、株主の期待に応えるべく、下記のとおり企業行動憲章を定めています。

また、大日本塗料グループでは、核となる大日本塗料内に「コンプライアンス相談窓口」を設けており、内部統制上疑問に思うことがある場合にはEメールまたは電話で相談・報告できるような体制をとっています。なお、この際の相談・報告者のプライバシーは保護され、何らの不利益も被らないことを約束しています。

大日本塗料企業行動憲章

1. 消費者・ユーザーの信頼獲得

創造力豊かな人材が集う、自由でのびやかな企業風土を大切にして、暮らしに役立つ優れた製品・サービスを提供し、お客様の安心と信頼を獲得します。

2. 良識ある企業行動

常に公正・透明・自由な競争を行い、違法な行動はもちろん、不当な手段による利益の追求や不透明な行動は行いません。また、いわゆる反社会的勢力とは全社一体となり、断固として対決します。

3. 環境と共生

かけがえのない地球環境を守るため、常に環境に優しい製品を生み出すとともに、省資源、省エネルギー、リサイクルの推進等、環境との共生を目指した活動を行って、潤いある環境づくりに貢献します。

4. 社会とのコミュニケーション

株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示することで、社会から信頼される、開かれた企業をめざします。

5. 社会貢献活動

良き企業市民として自ら積極的に社会貢献活動を行うとともに、従業員の社会参加を奨励、支援します。

6. 安心して働きやすい職場づくり

従業員一人ひとりの人格、個性を尊重し、安全で働きやすい職場環境づくりをすすめて、従業員のゆとりや豊かさを支援します。

7. 国際社会との協調

海外においては、その文化や慣習を尊重し、現地の発展に貢献する企業活動を行い、国際社会との協調、相互信頼を図ります。

8. 経営トップの責務

経営トップは、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範して社内外に周知徹底します。万一、本憲章に反するような事態が発生したときは、経営トップは自ら原因究明、情報開示にあたり、自らを含めて責任を明確にし、再発防止策を徹底します。

環境経営の基本方針

環境に配慮した製品の開発、製造、販売を行うことにより、
広く社会に貢献します。

■ 環境・品質保証担当役員のメッセージ



取締役常務執行役員
管理本部長
瀬古 宜範

当社は、塗料の生産から塗装、塗膜の寿命までのサイクルの中で、エネルギー消費量（炭酸ガス発生量）の少ない塗料、即ち、水性塗料はもとより、低温硬化、省工程、高耐久化（塗膜の長寿命化）等の機能を具備した塗料や、エネルギー消費を抑制する遮熱塗料等、多くの環境配慮形塗料を市場に提供しており、ユーザーの皆さまから高い評価を得ています。当社はこれにとどまることなく、依然として進行する地球環境の悪化に歯止めをかけるためにも下記の環境方針を掲げ、環境配慮形塗料の更なる高度化、即ち、トータル消費エネルギーのより少ない塗料、大気汚染防止（VOC削減）塗料の開発力強化とスピードアップを図ってまいります。

環境方針

大日本塗料株式会社は、「環境負荷が小さく持続可能な経済社会を築いて行くことが重要である」との認識のもと、地球規模の環境保全活動を継続的かつ着実に推進しながら、塗料及び関連製品の開発・製造・販売を通じ社会に貢献する事を基本とする。

活動は、以下の環境方針に基づき全員が一致協力して行う。

1. 製品の研究開発から生産・販売・サービスを経て廃棄に至るまでのライフサイクル全体に渡り、事業活動から生じる環境への影響を常に的確に評価・把握できる環境マネジメントシステムを確立し、実施し、環境汚染を予防する。
2. 環境マネジメントシステムを実施、維持し、PDCAサイクルによる継続的改善を図る。
3. 事業活動、製品及びサービスに係わる環境関連法規制、並びに当社が同意するその他の要求事項を遵守することを約束する。
4. 環境保全推進のため、次のテーマを重点的に取り組む。これらの活動は、環境方針に基づき、目的・目標を立て計画的に実施すると共に、内容を定期的に見直し、改善する。
 - ① 環境負荷低減を可能にする塗料及び関連製品の開発、販売
 - ② 揮発性有機化合物の適切な管理と削減
 - ③ 産業廃棄物の発生抑制とリサイクル促進
 - ④ 省エネルギー並びに地球温暖化防止活動
5. 環境方針は文書化し周知徹底すると共に、グループ会社を含めた全従業員（パート、派遣者等を含む）に対し環境教育を行うと共に、当社の事業活動に関与する人も含めて、環境保全に対する理解と意識の向上を図る。
6. この環境方針は一般に公開する。

環境マネジメント

環境方針にもとづいた活動体制を組織し、全員参加により環境マネジメントシステム(EMS)を展開しています。



環境保全活動体制

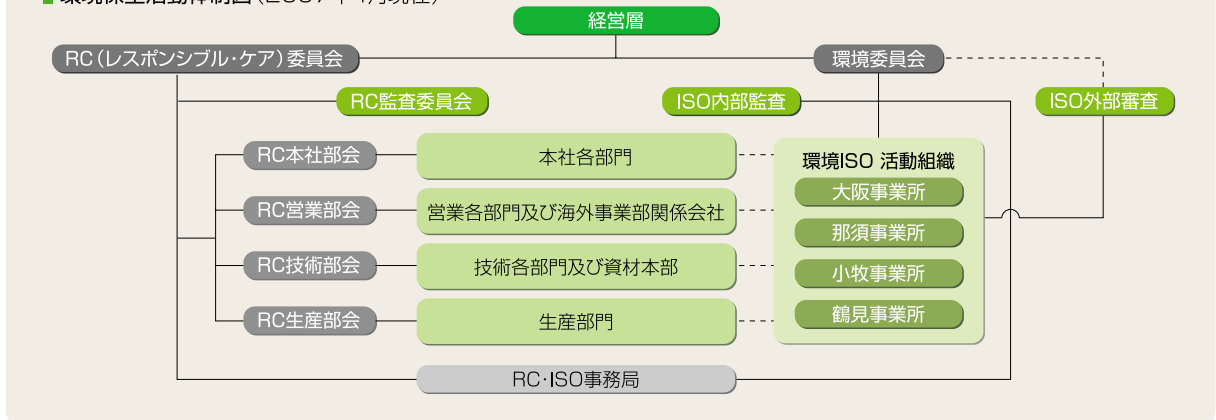
当社では、会社の全組織をその業務内容により本社部門、営業部門、技術部門、生産部門の4つに区分して「部会」と名付け、QC、工夫改善、レスポンスブル・ケア等の活動を行ってきました。

2005年10月にはQMS(品質マネジメントシステム)活動において実際の会社組織の最小単位(通常は課、チーム等)での活動方式を取り入れ、部署長に運用責任

をより多く委ねることとしました。

また、2006年1月にはEMS(環境マネジメントシステム)でも同様に組織小単位での活動を開始しました。この活動体制は、ISOの基本である「全員参加」に一層繋がるものと考えています。各自の意識向上はもとより、ISOの仕組みを自分たちの実際の業務に生かしていく努力を引き出すことができるよう、今後もこの活動体制の定着化を図っていきます。

■ 環境保全活動体制図(2007年4月現在)



環境マネジメントシステム

大日本塗料では、大阪事業所、那須事業所、小牧事業所、鶴見事業所の4事業所でISO14001認証を取得しています。

■ ISO14001認証取得状況

事業所名	取得時期
大阪事業所	2002年3月
那須事業所	2003年3月
小牧事業所	
鶴見事業所	

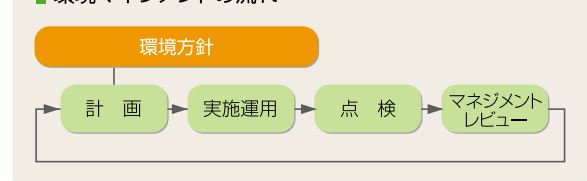
2006年度は、ISO14001活動の日常業務への落とし込みによる一層の定着化を図りました。

特に若年層や間接部門の教育に注力し、「全員参加」という概念の理解に結びつけるよう努力しました。

その結果、環境パフォーマンスの面では、生産主力拠点である那須事業所において、エネルギー使用による二酸化炭素の排出量の対前年比削減目標を達成すると共に、廃棄物総排出量の削減も実現しました。

また、もう一方の生産主力拠点である小牧事業所では、生産量の低減や生産品目変更等の不利な条件の下で、生産量当たりのエネルギー使用による二酸化炭素の排出量並びに廃棄物排出量の双方について、2004年度レベルの維持ができ、次年度には削減という目標が視野に入りました。

■ 環境マネジメントの流れ



環境監査

内部監査

内部環境監査員資格者の中から環境管理統括責任者によって選任される内部環境監査員は、ISO14001規格に基づき、年1回環境マネジメントシステムの維持・管理状況について定期監査を行っています。

これまで不十分であった緊急事態への準備・対応手順の改善や、生産部門の再配置により状況の変化があった事業所について、環境側面の見直しと同時に役割分担の見直しを行い、システム運営に支障がないよう対応しています。

2006年度は、全員参加によるISO活動のさらなる定着化を目指し、各組織の業務に関わる活動テーマの選定と、全員参加の意識向上を図りました。



内部監査の実施状況

項目	2004年度	2005年度	2006年度	
	'05 1~2月実施	'06 1~2月実施	'07 1~2月実施	
対象事業所数	5	4	4	
対象部門数	28	71	71	
延日数	8	4	4	
延監査員数	34	54	54	
指摘件数	軽欠点	12	16	28
	コメント	57	91	67

外部審査

2004年度のISO14001活動及び、認証取得後3年間の活動について、2005年3月に更新審査を受け、認証取得の継続が認められました。指摘事項には、「廃棄物の管理」「不適合の是正」等に関するものがあり、原因究明、修正処置を実施し、更に再発防止の為の方策を実行しました。また、関連部門への展開も図りました。

2005年度の活動については、2004年版規格に基づく審査を2006年2月に受け、新規格への適合並びに認証取得の継続が認められました。指摘事項には、新規格の「順守評価」に関するものがあつたため、社内各層への教育に組み入れ、関連部署でも改善を図りました。

外部審査の実施状況

事業所	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
		2003年度活動について'04年5月に審査	2004年度活動について'05年3月に審査	2005年度活動について'06年2月に審査
大阪事業所	'03 3月、維持審査			
那須事業所		対象：5事業所 軽欠点：3件 コメント：1件	対象：5事業所 軽欠点：7件 コメント：2件	対象：4事業所 軽欠点：1件 コメント：2件
小牧事業所	'03 3月、認証取得			
鶴見事業所				
滋賀事業所				

環境教育

当社では社員を対象に、講義と実習で構成される環境安全講座を実施しています。我が国におけるVOC規制、欧州におけるRoHSやELV指令など塗料と環境問題との関わりについての理解を深めることで、専門的営業能力の向上、営業活動のノウハウ、塗料及び塗装技術、環境対応の知識の習得を図っています。



環境対応情報システム説明会



環境商品講座

環境行動計画と実績

「環境への配慮」をコンセプトとしたアクションプランを策定し、
 全員参加でRC (レスポンシブル・ケア) 活動等に取り組んでいます。

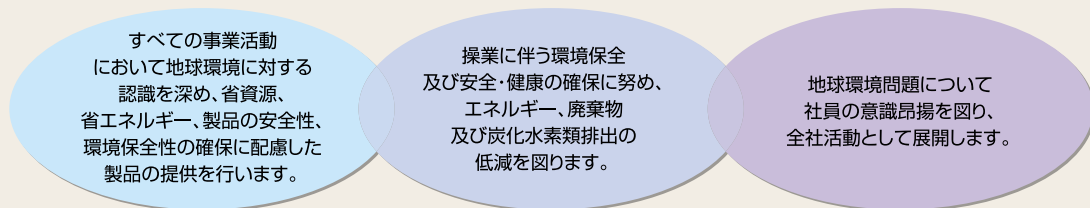
グリーン宣言

自分たちの出来ることから実行することが、地球規模の環境を守ることになります。大日本塗料は『グリーン宣言』を掲げ全社一丸となって「健康で快適な環境を創る」をテーマに、環境対応に積極的に取り組み、企業としての責任を遂行していきます。



環境行動計画

Concept



Action Plan

1. 環境・安全・健康に配慮した製品を提供します。
2. 製造技術の向上により、安全及び災害事故対策の整備に努め、製造時の環境・安全・健康を確保します。
3. 供給先での製品使用状況などの情報把握に努め、関連諸問題解決への支援を行います。
4. 製品の物流に関する車両及び貯蔵設備の適切な管理・輸送及び貯蔵技術の向上、事故対策の整備に努め、物流時の環境保全、安全・健康を確保します。
5. 事業活動に伴う産業廃棄物の減量化・適正処理化を推進し、環境の保全、安全・健康の確保に努めます。

レスポンシブル・ケア活動の概要

RCコード	行動計画	2006年度活動実績
環境保全	有害物質使用量削減	管理基準Aランク37物質のゼロ化ほぼ達成。
		有機溶剤02年度比約20%削減。
		PRTR対象物質02年度比11.5%削減。内キシレン27%、トルエン38%削減。但し、有機溶剤以外の物質は5.37%増加(2005年度より減少はしている)
	廃棄物リサイクル率の向上	リサイクル率50%レベル。 廃棄物総量の削減。
	消費エネルギー削減	消費エネルギーの削減に取組み、前年より減少。
環境配慮形製品の販売比率向上	環境対応商品の拡販に注力。	
保安防災	保安防災体制の見直し	職場巡視による危険箇所の抽出、評価、改善の実施。 新規設備導入時のコンプライアンス、安全センサー等への配慮のマニュアル化実施。
	設備に関わる災害・事故の発生ゼロ	設備に関わる重大事故の発生なし。
労働安全衛生	災害・事故の発生ゼロ	不休災害5件発生。原因究明と再発防止策策定、横展開への情報提供実施。 相模製造所では、完全無災害3年以上を継続中。
	疾病率の低減	年間累計2.29%。
	5Sの展開	職場における「突起物」の見直し、静電気対策の重点実施。
物流安全	輸送安全措施用携行品 (イエローカード、吸着材等)の完全励行	イエローカードの携行の徹底、消火器、吸着材等の携行のチェック、 各倉庫におけるウエス・吸着材の保管場所明確化、数量確保のフォローを実施。
化学品・ 製品安全	原材料の安全性情報の整備	EMS運用プログラムに組み込み、活動を推進。
	製品MSDSのタイムリーな提供	各営業所、受注センター等で円滑に対応。
社会との対話	地域社会との交流促進	地域一斉清掃、ボランティア活動への積極的な参加と交流活動実施。 各種協議会に継続入会し、地域社会との交流、情報交換を実施。
	環境活動に関する情報発信	ホームページからの発信情報による企業イメージ向上活動推進。

環境会計

環境に配慮した事業活動を進めるためのコスト、効果を定量的に把握し、着実に環境負荷を低減させています。



環境保全コスト

企業活動にともなう環境負荷を低減させる設備機器への投資、環境対応商品の研究開発にともなう費用、環境情報の公開、地域活動への支援などの費用を環境保全コストとして集計、管理しています。2006年度は大阪事業所での環境整備に努めました。

(単位:百万円)

コスト分類	事業エリア内コスト 上・下流コスト	管理活動コスト	研究開発コスト	その他コスト	合計
活動の内容	公害防止 地球環境保全 資源循環 グリーン購入実績	EMSの整備・運用 環境情報の開示・広告 社員への環境教育	環境保全に関する 研究開発	土壌調査、浄化 環境保全活動の地域支援 など	
2002年度	31.3	9.6	0.3	4.3	45.6
2003年度	60.8	106.8	3.3	0.4	171.3
2004年度	55.0	24.9	10.7	0.9	91.6
2005年度	63.3	47.2	11.1	0.4	122.0
2006年度	57.9	101.2	7.8	18.3	185.2
合計	268.3	289.7	33.3	24.3	615.6

※2003年度は、コージェネレーションシステムを導入しました。

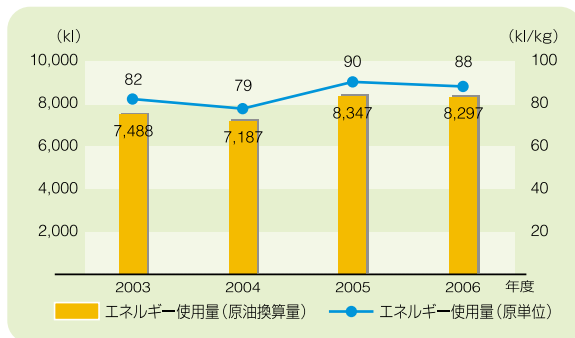


環境保全効果

エネルギー使用量は増加しましたが、産業廃棄物の発生量は減少しています。また、生産量1kg当たりのエネルギー使用量や産業廃棄物の発生量(原単位)も同じ傾向となっており、廃棄物削減に向けた取り組みの効果は着実に出てきています。

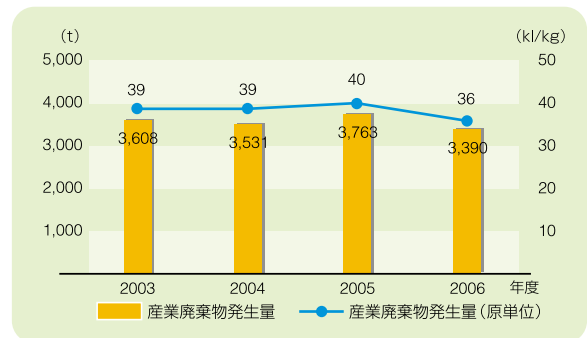
■ エネルギー使用量・原単位の推移

	2003 年度	2004 年度	2005 年度	2006 年度
エネルギー使用量 (原油換算量) (kl)	7,488	7,187	8,347	8,297
原単位 kl/kg (生産量)	82	79	90	88



■ 産業廃棄物の発生量・原単位の推移

	2003 年度	2004 年度	2005 年度	2006 年度
産業廃棄物発生量 (t)	3,608	3,531	3,763	3,390
原単位 kl/kg (生産量)	39	39	40	36



人と環境にやさしい商品の開発

「健康で快適な暮らし」の実現のため、
環境対応形商品をスピーディーに提供しています。

環境対応形商品開発の方針

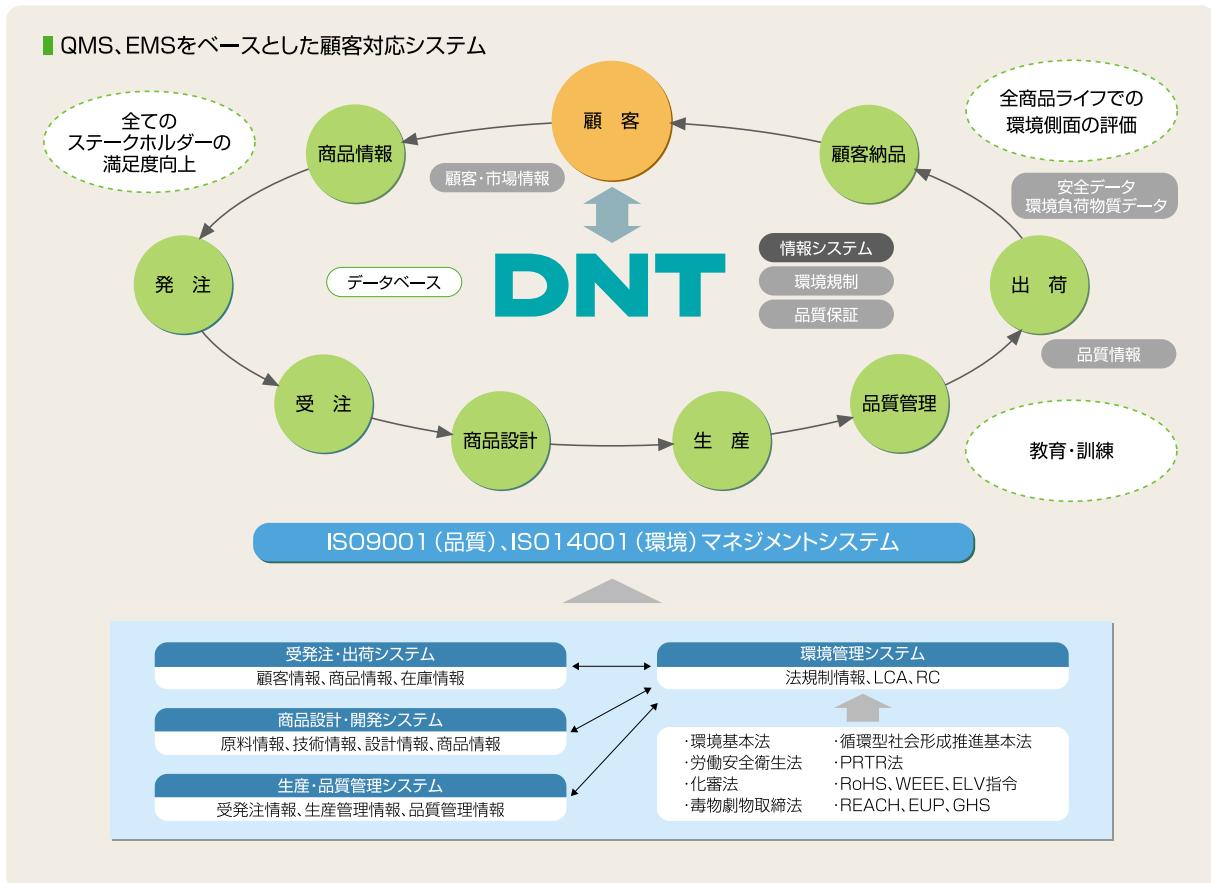
当社では総力をあげて環境対応技術・商品の開発に取り組んでおり、人々の快適な暮らしの実現のために、「健康」「安全」「省エネ」「省力化」をテーマとした、人と地球にやさしい技術を提供しています。

「環境保全」技術分野の強化商品には、水系塗料・粉体塗料・ハイソリッド塗料・ノンソル塗料・UV硬化塗料などがあります。「省エネ・省資源」技術分野では、都市のヒートアイランド現象の緩和が期待できる高反射塗料（遮熱塗料）が今最も注目されています。「省力化・高機能化」分野では、塗装工程の短縮化及び高耐久化による長寿命化などが、引き続き追求すべき技術課題です。また、これらの環境サポート技術と当社の新規事業分野における先端技術との融合も期待できます。透明導電性コーティングをはじめと

する「ナノテクノロジー分野」、吸着分解・バイオマス・リサイクル等の「バイオテクノロジー分野」、「光触媒分野」、「CO₂吸着固定化技術分野」等の関連テーマについて積極的開発を行っていますが、これらの先端技術との融合によって環境サポート技術の革新を図り、環境をより強く意識した企業への脱皮をめざしています。

環境対応形商品管理システム

QMSとEMSとの統合という動きが広まりつつあるなか、当社でも検討を重ね、活動の融合化に取り組んでいます。その一例を挙げると、国内外で最近特に厳しくなっている環境負荷物質規制への対応・管理のために、QMS、EMSをベースとした顧客対応システムの運用をしています。





環境対応形商品

Green & Clean をめざし、低VOCを大切にする当社は、あらゆる分野で水系化・弱溶剤化・脱重金属化・粉体化を推進。人と環境に配慮した製品を提供しています。

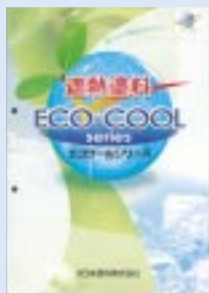
■ 環境対応形商品一覧

用途	商品群	商品
建 築	室内環境対応形水系塗料	ノボクリーン、ノボクリーンビュー、ノボクリーンバイオ
	室内環境対応形高意匠内外塗装材	ノボクリーンDeCo
	遮熱塗料	エコクールマイルド、エコクールアクア
	反応硬化形水性強膜塗料	水性ビルデック
構造物	高性能水系さび止めペイント	ブルーボーセイ
	鉛・クロムフリーさび止めペイント	グリーンズボイド、グリーンボーセイ
	一液湿気硬化形ポリウレタン樹脂下塗塗料	Vグラン
	浸透性変性エポキシ樹脂塗料 弱溶剤形	エポオールスマイル
	浸透性変性エポキシ樹脂塗料 弱溶剤形・厚膜形	エポオールHBスマイル
	厚膜形ポリウレタン樹脂上塗塗料 弱溶剤形	VトップHBスマイル
	ふっ素樹脂上塗塗料 弱溶剤形	Vフロン#100Hスマイル
	ふっ素樹脂上塗塗料 弱溶剤形・厚膜形	VフロンHBスマイル
	弱溶剤厚膜形シリコン変性エポキシ樹脂系上下塗兼用塗料	Vシリコンスーパー
工業用	粉体塗料	V-PET各種
	薄膜美装粉体塗料	FINE V-PET
	低VOC水系焼付用塗料・常乾塗料シリーズ	アクアマイティーシリーズ
	低VOCハイノリッドウレタン塗料	VシャインECO
	低VOC水系常乾上塗塗料	ハイマックTZ
	低VOC水系常乾プライマー	アロナ#550
	水系焼付用塗料	テクノン
	水系建材用塗料	Vセラノ
	水系プラスチック塗料	アクアブラニットシリーズ
	二液形水性ウレタン塗料	アクアマイティー二液ウレタン
	エポキシ樹脂系水溶性塗料	アクアマイティーエポ#1000
	環境配慮形常乾下塗塗料	コスモマイルド
	自動車補修	高仕上がりのウレタンクリアー塗料
環境配慮形自動車補修用上塗塗料		Auto D-1ベースノクリアー

■ 建築用塗料



● **ノボクリーンシリーズ**
有機溶剤をゼロにし、従来のエマルジョン塗料特有の臭いがなく、人や地球環境にやさしい、室内用塗料です。



● **エコクールシリーズ**
光の高反射・熱の高放射による優れた遮熱効果があり、建物や構造物の温度上昇を抑制し、冷房コストを節約します。

■ 構造物用塗料

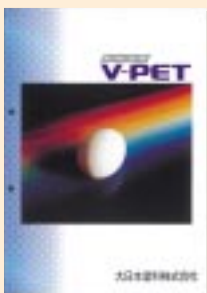


● **スマイルシリーズ**
塗料用シンナー希釈形の下塗・中塗・上塗シリーズで、環境にやさしい弱溶剤形防食塗料システムです。



● **Vシリコンスーパー**
各種構造物の維持管理業務（塗替塗装）が増加する中、環境負荷低減や省工程化によるコスト削減の一役を担う、エポキシ樹脂とシリコン樹脂のコラボレーション塗料です。

■ 工業用塗料



● **V-PET**
無溶剤・省資源・塗装の効率化を可能にした粉体塗料です。用途や性能別に、充実した商品をラインアップしています。



● **コスモマイルド**
“脱重金属”“非トルエン・キシレン”はもちろん、従来の産業機械用塗料では困難とされていた、ホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆を実現した、環境対応形下塗塗料です。

■ 自動車補修用塗料



● **Auto D-1 Base**
お客様の作業性の改善、省力化に取り組み、生まれたのが一液ベースコート「Auto D-1 Base」、地球環境に配慮した高品質の自動車補修用塗料です。



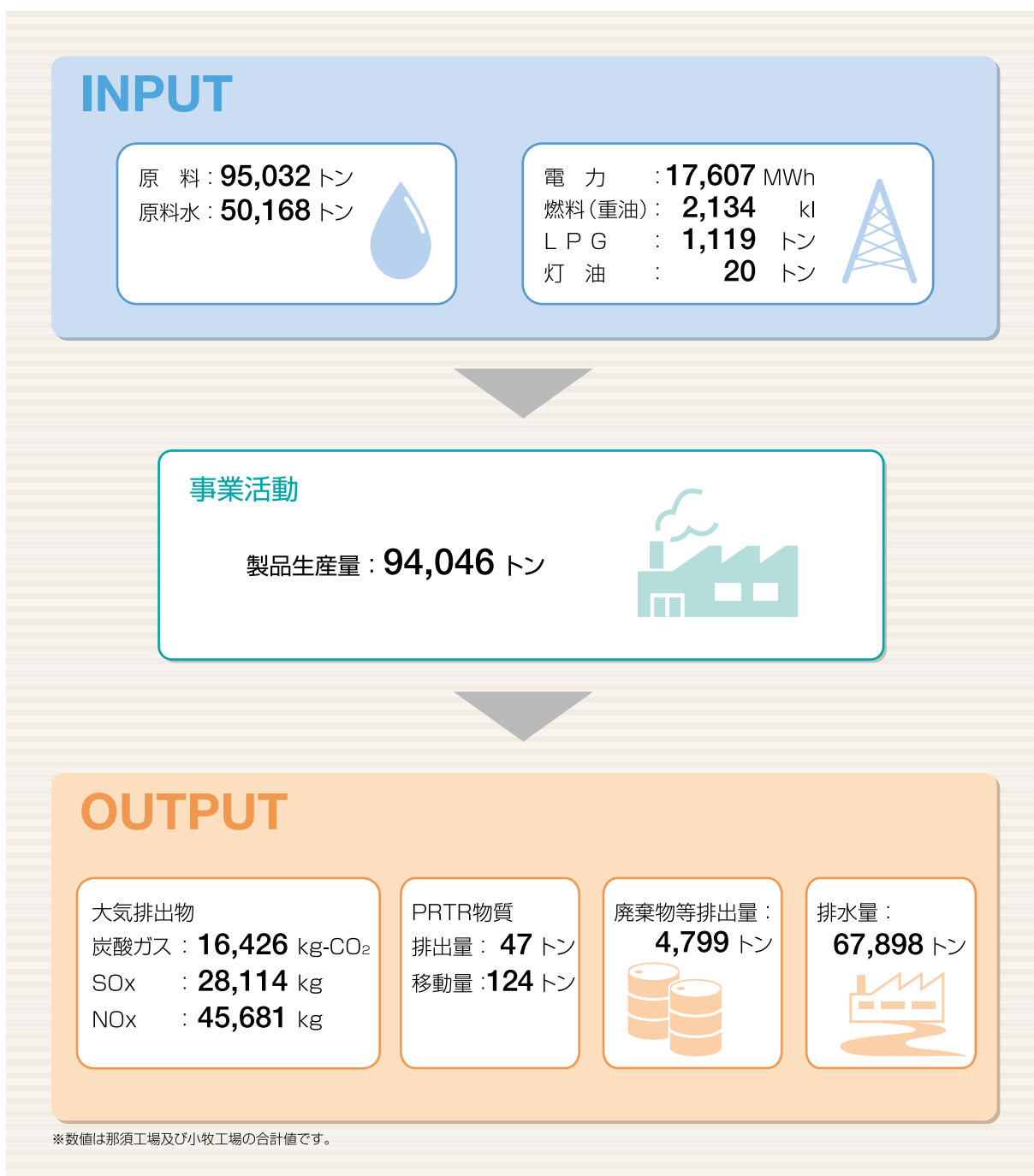
● **Auto ビューイングVクリヤー**
有機溶剤を20%以上削減(当社比)した自動車補修環境対応形クリヤーです。

事業所における環境保全活動

温室効果ガスの排出量削減、環境負荷物質の排出抑制、化学物質の管理、廃棄物の削減に積極的に取り組んでいます。

事業活動のマテリアルバランス

大日本塗料では、主力工場である那須工場及び小牧工場における環境負荷を把握、分析し、原材料の有効活用、エネルギーの効率的な利用、排出ガス、排水、産業廃棄物の削減、リサイクル利用を推進しています。



地球温暖化防止への取り組み

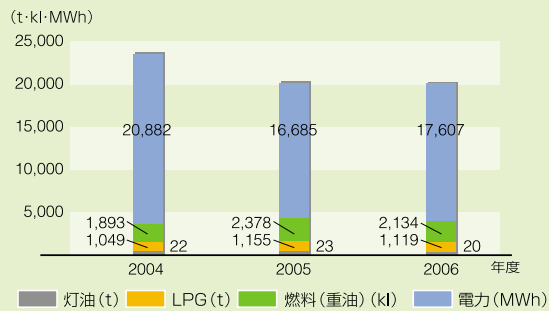
当社は硬化乾燥時のエネルギー消費量を削減できる低温硬化形焼付塗料、夏季の室温上昇を抑制できる遮熱塗料などの商品を開発・提供しており、これらの商品をご使用いただいた事業所でのエネルギー削減に寄与しています。

また、当社の各事業所でも、工場、倉庫への遮熱塗装を行い効果を上げています。

那須事業所では、コージェネレーション設備や太陽光発電パネルを設置し、地球温暖化防止に繋がる活動に積極的に取り組んでいます。

このほか、各事業所では緑地を設けて植栽を行うなどの環境美化に努めています。

エネルギー使用量の推移



広い緑地を設けた那須工場



太陽光発電パネル



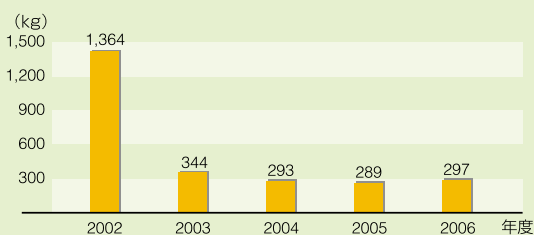


地球環境の汚染防止

■ 水質汚濁防止

当社は水質汚濁防止法、条例を遵守するとともに、工場の地元自治体、漁業組合との協定を結び定期的な測定、確認を実施しています。また、万一の漏出事故が生じた場合を想定して、「緊急事態発生対応ガイドライン(事前処置とその対策)」を作成し、予防対策と緊急時の対応をとっています。また、このガイドラインに基づいて、緊急事態発生を想定した防災訓練を定期的に行っています。

■ 水質総汚濁負荷量(総COD負荷量)

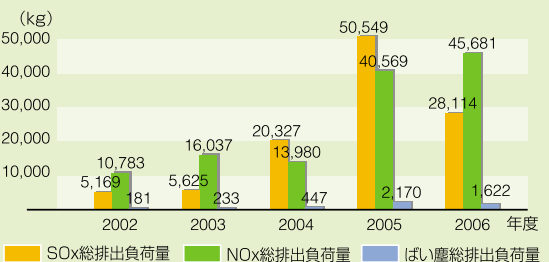


■ 大気汚染防止

当社の工場や事業所から排出、飛散する大気汚染物質としての、SOx、NOx、ばい塵(すず)は大気汚染防止法、条例、協定による規制値を十分にクリアしています。さらなる排出量の抑制に取り組んでいます。

また、揮発性有機化合物(VOC)規制についても、工場からの排出抑制はもちろん、低VOC製品を開発、品揃えをすることで、当社ユーザーでの排出量削減にも大きく寄与しています。

■ 総排出負荷量



2005年度からボイラーの排出量をカウントに加えています。

■ 大気排出負荷量

		2002年度		2003年度		2004年度		2005年度				2006年度			
		規制値	実測値	規制値	実測値	規制値	実測値	ボイラー		発電機		ボイラー		発電機	
大気 (大気汚染防止法、 条例・協定)	SOx (ppm)	647.5	18.1	647.5	13.1	647.5	37.8	647.5	27.82	14.5	3.61	647.5	28.59	14.5	1.52
	NOx (ppm)	750	179	330	128	330	128	330	155	950	741	330	119	950	845
	ばい塵 (g/m ³ N)	0.9	0.009	0.5	0.007	0.5	0.014	0.5	0.025	0.1	0.027	0.5	0.04	0.1	0.027
総排出 負荷量	SOx総排出負荷量 (kg/年)	—	5,169	—	5,625	—	20,327	—	50,549	—	—	—	28,114	—	—
	NOx総排出負荷量 (kg/年)	—	10,783	—	16,037	—	13,980	—	40,569	—	—	—	45,681	—	—
	ばい塵総排出負荷量 (kg/年)	—	181	—	233	—	447	—	2,170	—	—	—	1,622	—	—

■ 環境分析装置



ICP(誘導結合プラズマ)発光分析装置



蛍光X線分析装置



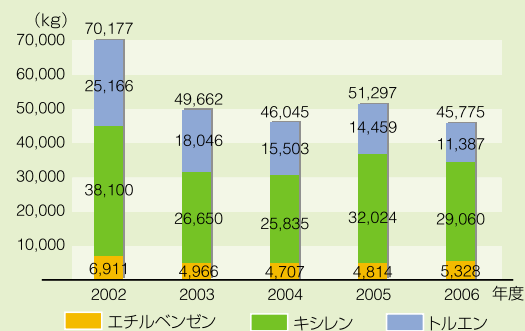
小型チャンバー法VOC測定装置



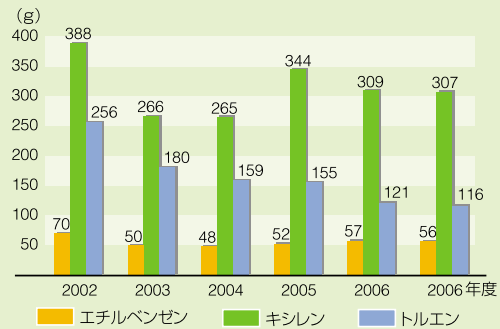
化学物質の管理

大日本塗料は、「特定化学物質の環境への排出量の把握等管理の改善の促進に関する法律」(化学物質排出把握管理促進法、いわゆるPRTR法)の適用を受ける化学物質の管理と環境への排出量の削減のための改善活動を継続しています。

■ 大気排出量の多い3溶剤 (PRTR法対象品)



■ 排出量 (原単位) 製品1トン当たりのグラム数 (PRTR法対象品)



PRTR法排出量・移動量

種類	物質	PRTR物質番号	2006年度(平成18年度)(2006.4~2007.3)		
			3事業所合計		
			排出率 (%)	大気排出量 (kg)	移動量 (kg)
1種	アクリル酸	003		0	66
1種	アクリル酸エチル	004		0	220
1種	アクリロニトリル	007		0	37
1種	2,2'-アゾビスイソブチロニトリル	013		0	6
1種	アンチモン及びその化合物	025		0	0
1種	ビスフェノールA	029		0	70
1種	ビスフェノールA型エポキシ樹脂	030		0	721
1種	エチルベンゼン	040	0.60	5,328	10,476
1種	エチレングリコール	043		0	16,800
1種	キシレン	063	0.60	29,060	58,430
1種	クロム及び3価クロム化合物	068		0	16
1種	コバルト及びその化合物	100		0	18
1種	エチレングリコールモノエチルエーテルアセテート	101		0	0
1種	酢酸ビニル	102		0	77
1種	シクロヘキシルアミン	114		0	16
1種	3-(3,4-ジクロロフェニル)-1,1-ジメチル尿素	129		0	58
1種	スチレン	177	0.60	660	2,410
1種	1,3,5-トリメチルベンゼン	224	0.35	890	2,630
1種	トルエン	227	0.95	11,387	18,830
1種	鉛及びその化合物	230		0	4,080
1種	フェノール	266		0	30
1種	フタル酸ジ-ノルマル-ブチル	270		0	174
1種	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	272		0	77
1種	ヘキサメチレン=ジイソシアネート	293		0	32
1種	1,2,4-ベンゼントリカルボン酸-1,2-無水物	300		0	21
1種	ほう素及びその化合物	304		0	0
1種	ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル	309		0	130
1種	ホルムアルデヒド	310	0.35	66	234
1種	無水フタル酸	312		0	5,100
1種	無水マレイン酸	313		0	8
1種	メタクリル酸	314		0	160
1種	メタクリル酸2-エチルヘキシル	315		0	42
1種	メタクリル酸2,3-エポキシプロピル	316		0	32
1種	メタクリル酸2-(ジエチルアミノ)エチル	317		0	2
1種	メタクリル酸ノルマル-ブチル	319		0	690
1種	メタクリル酸メチル	320		0	3,629
1種	メタ-トリレンジイソシアネート	338		0	8
特1	6価クロム化合物	069		0	263

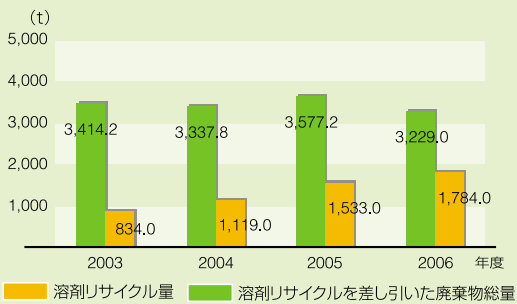


廃棄物排出量

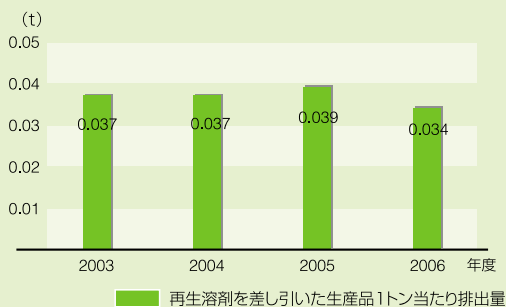
廃棄物の削減、リサイクル活動は全事業所の活動テーマとして取り組んでいます。

廃棄物の多くを占める工場での廃溶剤についてはリサイクルを行っており、リサイクル量が増加するとともに廃棄物の排出量は減少に転じました。

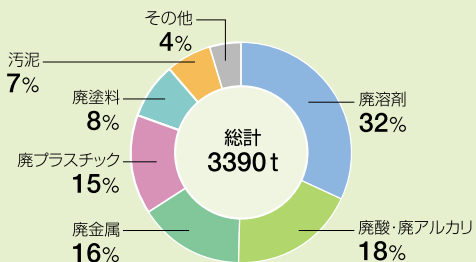
■ 溶剤リサイクル量と廃棄物排出量の推移 (総量)



■ 廃棄物排出量の推移 (原単位)



■ 産業廃棄物の種類



環境コミュニケーション

■ 大日本塗料「環境セミナー」開催

大日本塗料ではVOC規制、シックハウス症候群への対応等、塗料業界、塗装業界を取り巻く経営環境の変化に関する正確な情報を、お客様にいち早く提供するために、「環境セミナー」を開催しています。札幌からスタートし、本州(東北、関東、中部、関西等)や四国を経て九州まで全国11カ所、1,000名近くのお客様に、今後の環境問題への対応策について提案を行ってきました。

2006年度のテーマは「省エネ」、建築の分野では「環境対応市場の動向」と「遮熱」の観点で、構造物分野では「水系塗料や鉛クロムフリー」などの環境を考えた塗料の位置づけと、厚膜化による工程短縮等の「省工程化」に対する提案など、幅広い内容のセミナーとなりました。



セミナー会場風景



グリーン調達・購入

グリーン調達とは、製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して必要性をよく考え、環境への負荷をできるだけ少なくするものを選んで購入することです。

グリーン調達は、消費生活など購入者自身の活動が環境にやさしいものになるだけでなく、製造する企業にも環境負荷の少ない製品などの開発を促すことで、経済活動全体を変えていく可能性を秘めています。

環境省が所轄する2001年4月1日施行のグリーン購入法（正式には「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」）に基づき、国等の公共機関が環境物品等の調達を義務づけているとともに、地方公共団体や事業者及び個人にもグリーン購入に努めることを求めています。

2001年2月に紙類、文房具、自動車、公共事業など14分野について101品目特定調達品（グリーン商品）が公示されましたが、2002年4月から適用する品目に塗料として初めて「下塗り塗料（重防食）」（鉛、クロム等の有害重金属を含む顔料を配合していないこと）が公共事業の分野で指定されました。

当社ではグリーン調達に適應する商品の品揃えをするとともに、グリーン購入を実施しています。

■ 大日本塗料のグリーン購入に基づく主な特定調達品目

1. ノボクリーン
2. グリーンスポイド
3. グリーンポーセイ

■ 各業界のグリーン購入への対応

各業界のお客様への当社品の納入は、各顧客ごとのグリーン購買規定を満足すべく、審査を受け認定を得ています。

● 主な取得認定

1. ソニーのグリーンパートナー制度
2. パイオニアのグリーン調達認証制度
3. 自動車業界等の指定は要求項目で指示を満たしています。

グループ会社の取り組み

大日本塗料グループの一員として、
同じ目標に向かって歩調を合わせて活動しています。

ここでは、2社の事例を紹介します。
環境保全活動や独自の環境対応形商品開発への取り組みも積極的に行っています。

岡山化工株式会社



- 設立年月日 1987年11月
- 資本金 8,000万円
- 社員数 55名
- 所在地 〒716-1554
岡山県加賀郡吉備中央町西152番6
TEL : 0866-55-6234
FAX : 0866-55-6235
- 生産品目 各種塗料、シンナー、調色加工品
- ISO 9001 2000 (2005年2月取得)
- 環境関連管理システム 取得計画中

岡山化工(株)は大日本塗料(株)の関係会社として、永年蓄積してきた塗料における製造、調色技術を活かし、各種塗料・シンナーの製造並びに調色加工を行う会社です。

■ 環境に関する取り組み

- RCの月々データ管理により、省エネ対応を行っています。
→ 産業廃棄物10%削減目標
- 地元電力会社の指導のもと、電力削減に取り組んでいます。
→ コンプレッサーのインバーター化の検討
- PRTR等化学物質の管理により、VOC環境負荷物質の削減に取り組んでいます。
→ 鉛及びその化合物において、対前年比50%削減達成
- 構内3カ所に油分離槽を設置し、万が一の流出事故に備えています。
→ 危機管理意識の向上と無事故
- 工場及び工場団地内の安全環境パトロール(1回/週)を実施しています。
→ 5S定着による爽やかな環境の確保



油分離槽



安全環境パトロール

- 地域社会とのコミュニケーションを図るため、地域の方々とのおふれ合いを大切にしています。
→ 工場団地入口交差点 交通安全街頭立会い



交通安全

■ 環境関連トピックス

- 優良危険物取扱者表彰の受賞(岡山市消防局)(2007.3)
- 全体朝礼で『やるぞ!コール』の実践(5S、全社一丸、ヒューマンエラー防止)
- 防火・流出防止訓練の定期的実践(2006.10)



優良危険物取扱者表彰



やるぞ!コール



防火・流出防止訓練

大東ペイント株式会社



- 設立年月日 1966年12月
- 資本金 4,000万円
- 社員数 73名
- 所在地 〒243-0801
神奈川県厚木市上依知1043番地
TEL : 046-245-0208
FAX : 046-245-0847
- 生産品目 包装材用塗料、木床用塗料、一般工業用塗料、
精密機器用塗料

大東ペイント(株)は金属包装容器用塗料や木質フローリング用塗料等をはじめとし、各種工業用塗料の分野に数多くの製品を提供してきました。昨今のお客様のご要望の多様化や高機能化に対応すべく、地球環境の保全に配慮したユニークな製品作りをさらに推し進め、これからもお客様や社会に役立つための活動を続けていきます。

■ 環境に関する取り組み

- 新型密閉式練合機の導入
- 集塵機の更新
- 環境マニュアルの作成
- 廃棄物減量化への取り組み
- 環境、安全に配慮した製品開発
- EMS認証に向けての準備



新型密閉式練合機

■ 環境関連トピックス

- 最新鋭設備の導入
2005年5月に工場(S-2棟)の生産設備を一新し、生産性向上による少量多品種への対応に備えるとともに、設備の密閉化により作業環境も大幅に改善できました。
- 5S活動
2006年より全社的5S活動を展開しています。各グループごとに目標を設定し、毎月の5S推進委員会で進捗状況を報告するとともに、各委員からのアドバイスをうけて、より良い職場環境を目指して取り組んでいます。
- 防災訓練
地域(工業団地)各社共同の防災訓練に参加し、地震災害に備えています。



5Sタイム清掃活動



5Sパトロール



防災訓練

お客様との関わり

独自のユニークな環境対応商品づくりを通して、お客様の信頼にお応えしています。

品質方針

環境対応技術・商品開発にいち早く取り組み、業界をリードしてきた当社は、今後も「環境保全」「省エネ・省資源」「省力化・高機能化」など、「環境時代をサポートする技術」の優位性確保に努めるとともに、商品の開発スピードを早めて、ユーザー・顧客のニーズにそった製品を持続的に提供していきます。

品質方針

大日本塗料株式会社は次の品質方針を定める。

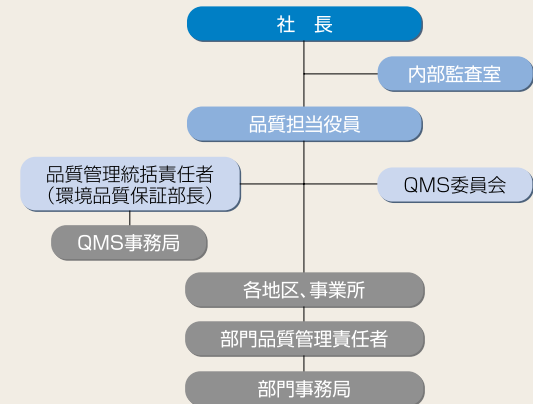
1. 顧客の要求品質を捉え、顧客の期待する製品及びサービスを遅滞なく適切に提供すること。
2. 顧客の要求品質を実現化するため、必要な経営資源を確実に提供すること。
3. 常に社会変化に対応し、自己の能力を最大限発揮し顧客満足度を高めること。
4. 品質マネジメントシステムを全員が理解し、計画的で効率的運用活動を実施し、且つ継続的改善を行うこと。
5. 環境保全等、地域社会を配慮した社会品質の向上に努め、社会に貢献すること。

品質保証体制

大日本塗料は生産関連会社並びに販売関連会社を含めた大日本塗料グループとして、塗料製品の製造、販売の事業を行っています。

製品の品質保証には生産部門だけではなく、設計、販売部門の関与が重要であり、当社では先ず那須事業所が生産部門に設計、販売部門を含めた形でISO9001への移行審査を受け、2002年に認証を得ました。那須事業所を母体として、さらに、2004年の維持審査時に、別会社となった販売部門の全営業所を適用範囲に入れ、文字通り設計、生産、販売を一体化した認証となりました。

品質保証体制図



塗料相談室

当社は「お客様の立場に立って行動する」を経営方針として掲げ、お客様満足度の向上に取り組んでいます。その一環として、お客様と当社を結ぶ電話での相談窓口として「塗料相談室」を設置しています。

フリーコール ^{イロヨイ} 0088-22-1641

「塗料相談室」ではお客様からのご依頼に基づき、各種新商品のご案内、商品カタログや塗装仕様、環境対応塗料選択マニュアル「クリーン環境提案」をはじめとする各種資料を提供しています。

これらの資料には、健康で快適な環境を創る「人と地球に優しさと彩りを」をテーマに、環境を配慮したクリーンな商品を提供する「DNTグリーン宣言」マークを記載しています。また、塗料相談室では色や規格などに関する問い合わせへの対応、専門的事項についての社内担当部門のご紹介と回答など、当社商品に関わるお客様の日常業務へのご支援も行っています。

お取引先懇談会

当社では「お取引先懇談会」を定期的で開催しています。主要なお取引先をお招きし、日常折衝を行っている資材本部員や技術員だけでなく、当社社長や各部門の役員も出席し、お取引先に対して「大日本塗料の現状と今後」について説明しています。このような機会を通じて、大日本塗料をご理解いただき、さらなるご協力を得ながら「双方にとってメリットのある関係」を構築していきます。



お取引先懇談会風景

販売店の人材育成への協力

当社では販売店の人材育成支援を目的とした研修講座を、年間スケジュールを立てて開講しています。カリキュラムは新社会人としての基礎知識やマナー、商品知識、管理業務など塗料営業マンとしての必要な知識や教養を広く身につける、初心者を対象にした入門コースから、中堅、ベテラン向けの高度な専門コースまで、階層別に教育実践を行う内容を用意しています。

まず新人コースでは、入社1~2年の方を対象に、専門講師により新社会人として必携の知識やマナーを習得します。また



商品知識コースでは、比較的少人数で実習に多くの時間を割き、調色、各種の方法による塗装技術の基礎、塗膜性能試験、塗膜異常への対処などを実際に体験し会得して“現場に強い”営業マンを育成すると共に、最近特に重要視されている環境問題に関して環境対応形塗料の紹介と知識、技術習得を重点とした研修を行っています。さらに管理業務コースは、色彩概論やリフォーム事業の展開、与信管理、パソコン技術、安全・環境関係を中心とした法規制などを習得する内容になっています。

これ以外にも建築、構造物、自動車補修など、各業種ごとや地区ごとに勉強会を随時開催して、現下の国内外の動向、法規制の動向、これに対する当社の取り組み状況の情報提供を行い、ユーザーへの良きパートナーとなる人材の育成を図っています。



「環境対応形塗料」講習



「色彩概論」のコンピューター・グラフィックス講習

従業員との関わり

従業員一人ひとりの個性を尊重しながら、働きがいのある職場環境をつくっています。

人材育成

当社では、採用内定者に対し、インターネットや通信講座を使った入社前研修を実施しています。入社後は、新入社員研修はもちろんのこと、必要に応じて英会話教室や通信教育講座などを受講することができます。

また、階層別研修として中堅社員育成研修やリーダー研修、基幹職研修、上級基幹職研修などを体系的に整備、本人の希望や適性を配慮した上で、キャリアを磨くための環境を整えています。

人事処遇制度

より働きがいのある職場・企業づくりと、今後の会社と従業員双方の発展と成長を目指した、新人事制度を導入しました。本制度の策定にあたり、まず現在の年齢別人員構成上の問題、従前の人事制度の課題等を分析・抽出し、当社の今後の目指すべき方向性にもマッチした形で、制度の全面的な見直しを実施しました。

本制度を適正に運用することにより、従業員一人ひとりの意欲の向上、ひいては会社全体の活性化に繋がることを期待しています。

ワーク&ライフバランスの推進

変化の激しい社会環境の中で新しい知識、技術を身につけることや、地域社会での活動に取り組むことは個人の生きがいに留まらず、仕事の満足度にもつながり、企業の業績へも反映されます。従業員の仕事と生活の両立をサポートするために、自己啓発、パートタイム、フレックスタイム、育児休暇などの各制度を設けるとともに、従業員の社会参加を奨励し積極的に支援しています。

高齢者雇用の推進

定年退職者が引き続き就労することを希望した場合、当社では高齢者雇用安定法の主旨に基づき、定年退職者の豊富な業務経験・知識・技能を会社の業務に再活用し、併せて高齢者の生きがいの充実を図りながら、会社の発展に資することを目的とした、シニアスタッフ制度を運用しています。

障害者雇用の促進

障害者の社会参加と職業的自立を図るために、雇用・就労の場を確保することが、企業としての社会的責任であります。当社では、障害者雇用促進法等の関係法令にそって基本的な方針を策定し、全事業所をあげて積極的に取り組んでいきます。

人権の尊重

性別、年齢、出身地、社会的身分などの理由による差別をしない。個性、能力を生かし、尊重することが人権尊重の基本であります。当社は企業倫理規範の中で、「人権と個性を尊重し、明朗で自由闊達な企業風土を築く」ことを宣言しています。

従業員の人格を尊重し、雇用の差別を行わないように雇用管理のルールを確立し、一人ひとりが安心して仕事ができる職場環境をつくっていきます。

個人情報の保護

個人情報の保護については、「個人情報保護方針」を掲げ、適正かつ慎重な取り扱いを行っています。

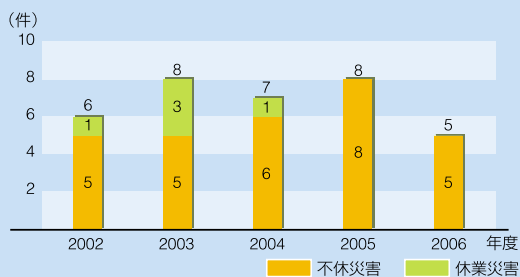
労働災害防止への取り組み

災害・事故が発生する前に、危険作業、危険箇所を発見して予防することを目的として、危険予知(KY)活動を行っています。各職場ごとに危険予知マップを掲示し、ヒヤリ、

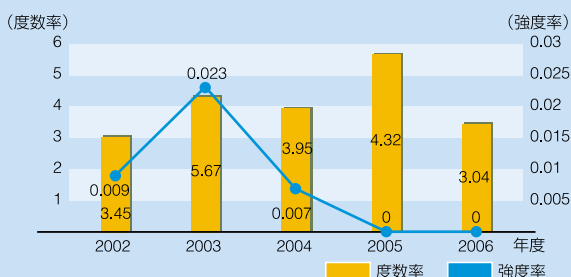
ハットをその都度記入し対策を実施しています。これらの活動内容や災害事故報告は毎月、地区安全衛生委員会で報告され、対策などの討議が行われています。全社の中央委員会では地区安全衛生委員会の報告を受け、これに対応しています。更に中央委員会では毎年、各事業所の職場巡回指導を実施し、経営層が直接作業現場を訪れて現場の意見を聞き、改善を図っています。

毎年の新入社員、中途採用者に対しては、安全衛生に関する初期教育を実施するとともに、日々のOJTでの訓練、指導を行っています。

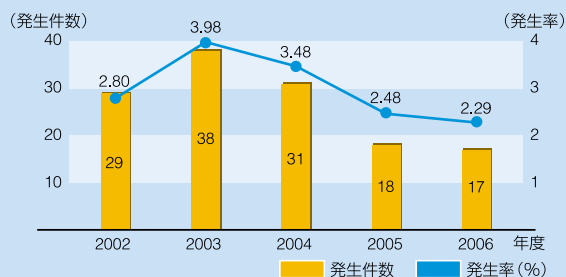
■ 労働災害発生件数



■ 休業災害度数率・強度率



■ 長期疾病発生件数



職場巡回指導

2006年度は、特に、「はさまれ、巻き込まれ災害対策」「静電気対策」の実施状況の確認を重要項目に設定して確認しましたが、重大な不備はありませんでした。

一方、昨年までと同様に5Sに関する指摘が多く挙げられ、引き続きフォローしていくべき課題ととらえています。

■ 2006年度の重点項目

- (1) はさまれ、巻き込まれ災害防止対策の実施状況確認
- (2) 静電気災害対策の実施状況確認
- (3) 著しい環境影響を及ぼす可能性がある設備の管理体制の確認
- (4) 従業員の健康被害に繋がる諸要因防止対策の実施状況確認

■ 職場巡回でのフォロー件数

2005年度		2006年度	
項目	件数	項目	件数
環境影響の可能性	2	はさまれの可能性	3
健康被害防止対策	14	静電気関連	7
保安防災体制	35	環境影響の可能性	14
5S	55	健康被害防止対策	8
		5S関連	65
		その他	15
	106		112

5S：整理、整頓、清潔、清掃、躰

健康増進への取り組み

従業員の健康診断を定期的実施しています。経過観察、治療が必要な場合は、産業医が面接し改善指導を行っています。また、産業医による工場内のパトロールを実施し、作業環境改善への指導を受けています。最近とくに大きな課題として取り上げられているメンタルヘルスについては、従業員の勤務実態を正しく把握し、労働時間が過剰となっている場合や欠勤がちな場合などには、産業医との面接を勧めるなどの対応を進めています。また、THP(トータルヘルスプロモーションプラン)運動への参加をするなかで、心と身体の健康づくりを展開しています。

社会貢献活動

一つの企業として、一人の市民として、地域活動に積極的に参画し、社会に貢献しています。



ボランティア活動

企業行動憲章に「良き企業市民として自ら積極的に社会貢献活動を行うとともに、従業員の社会参加を奨励、支援します」と定めている当社では、NPO法人「DNTボランティアネット」を設立し、各地区の「DNTハッピーメイト」の活動を支援しています。

● 大阪

大阪のボランティアグループ「DNTハッピーメイト」は、近隣の保育園や精神障害者授産施設の塗り替えを行い、明るく清潔な保育環境や、福祉施設の運営を支援しています。

● 那須

那須地区では工業団地の周辺道路や公園の清掃作業、地元小学校の壁画作成への塗料提供、シルバー人材センターでの塗装講習会開催などを行い、地域との交流を深めています。

● 小牧

地域住民との交流の取り組みとして、地元小牧市のマラソン大会など各種行事に協賛するなど、多様な活動を展開しています。



マラソン大会のゼッケンを提供



その他の活動

■ 「いいいろ塗装の日」記念イベント開催

塗装の日(11月16日)記念イベントが新宿駅西口「イベントコーナー」で行われました。本年度は「地球温暖化対策」と「落書き対策」の2つが中心テーマでした。

現在、落書き行為は首都圏だけでなく、地方都市でも目立つようになってきています。当社は街の治安と景観の維持に塗料で協力するために、実演も交え落書き防止塗料「マジックアート」の案内を行いました。

また、もう一つのテーマである地球温暖化対策については遮熱塗料「ケーデーエコクール」の優れた性能を取り上げました。



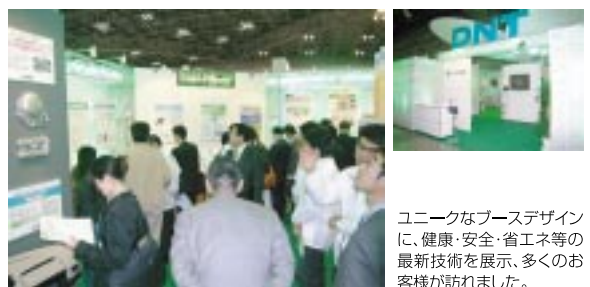
東京都豊島区の池袋地区で、落書き・貼り紙防止塗料「マジックアート」を使用し、商店街のシャッターの一斉改修を行いました。

■ 第4回「ペイントショー2006」に出展

「グリーン宣言 ～人と地球に、優しさと彩りを～」をメインテーマに、森をイメージしグリーン色に光るブース内を

- ① Clean & Beauty (環境対応技術と高意匠)
- ② Advance & Innovative (省エネルギーと革新技術)
- ③ Safety (災害から生活を守る)

の3つのテーマに分けて、各テーマの対象商品や技術を展示し、好評を得ました。



ユニークなブースデザインに、健康・安全・省エネ等の最新技術を展示、多くのお客様が訪れました。

環境保全活動の歩み

STEP 1 (2001~2003)

活動のフレーム構築、整備

■ 行動計画

- ・ RC活動と環境マネジメントシステムの統合
- ・ 活動組織作り
- ・ 大阪工場でのISO14001取得。さらに、全社統合認証取得へ

● ISO14001認証範囲の拡大

2002年3月に認証取得した大阪事業所を核に、那須、小牧、鶴見、滋賀の4事業所へ拡大を図り、2003年3月に維持・拡大審査を受審し、合格しました。

● PDCAサイクル

認証範囲拡大後の活動に関する経営層による見直しを実施してPDCAサイクルを確実に回し、次年度活動の方向性を決定しました。

● 製品の環境側面見直し

環境配慮形商品開発への展開へ繋がっています。

● グリーン宣言

環境に配慮したクリーンな製品を提供する「グリーン宣言」を発表しました。

● グリーン環境プロポーサル

業界初の環境商品選択マニュアルを発刊しました。

STEP 2 (2004~2006)

環境に貢献可能な企業への成長

■ 行動方針

- ・ 情報公開と社内責任体制の確立
- ・ 環境配慮形商品の開発
- ・ 3R (リデュース、リユース、リサイクル) ループの強化
- ・ 環境・安全衛生の継続的改善
2002年度を基準にした全社目標 (3年計画) を設定し、「環境貢献可能な企業への成長」を目指した活動を開始。

● 環境配慮形商品の開発

初年度目標:販売比率30%以上を達成しました。

● 廃棄物管理の見直し

小牧事業所で、「廃棄物排出状況の簡易診断」を受診し、リサイクル率向上のための手段の洗い出しを実施しました。

● 情報公開と企業責任

当社ホームページから積極的情報発信に努めています。地域社会へのボランティア活動、工場見学受け入れ等を継続して実施しています。

● ノボクリーンマニフェスト

外装分野にもゼロVOCの実現を約束した「ノボクリーンマニフェスト」を発表しました。

STEP 3 (2007~2010)

持続可能型経営の完成

■ 基本方針

- ゼロエミッション活動と3E経営の完成
- ・ 資源循環型の企業活動
- ・ 高収益経営
- ・ 環境経営
- ・ 高倫理社会貢献経営

DNTの環境対応形商品の歩み

1951	● 合成樹脂エマルジョン塗料「ビニローゼ#400」発売
1963	● 自動車用水溶性下塗塗料「エマロンシャーシ」発売
1968	● 無公害・省資源の粉体塗料「V-PET」発売
1971	● 弱溶剤形NAD強膜塗料「ビルデック」発売
1976	● 光硬化形の有機溶剤フリー木工用 UV塗料「ルーセン」発売
1978	● 水性焼付塗料「エマロン」発売
1990	● 「エポオールマイルド」「VトップHマイルド」などの弱溶剤形塗料「DNTマイルドシリーズ」発売
1995	● 「DNTビューウレタン」「DNTビューフツ」などの水性建築用塗料「DNTビューシリーズ」発売
1996	● 建築用の水性さび止めペイント「アロナ」発売
1997	● ホルムアルデヒドを吸着する室内環境対応形塗料「インテグラ」発売
1998	● 重金属フリーのアルキド樹脂系プライマー「コスモレックス」発売
2000	● 国内初のゼロVOC室内環境対応形塗料「ノボクリーン」発売 ● 太陽熱を反射放熱する省エネ塗料「ケーデーエコール」発売 ● 環境を浄化する光触媒酸化チタン塗料「Vノックスクリーン」発売
2003	● 無鉛タイプのりん酸塩系長期さび止め塗料「グリーンズボイド」発売 ● トルエン・キシレン・重金属フリーの焼付塗料「デリコンECO」「アクローゼECO」発売
2004	● ゼロVOC高意匠内外装塗料「ノボクリーンDeCo」発売 ● 塗料用シンナー可溶性トルエン・キシレンフリーの変性エポキシ樹脂塗料「エポオールスマイル」発売
2005	● 水性強膜塗料「水性ビルデック」発売 ● 高性能水系さび止めペイント「ブルーボーセイ」発売
2006	● 超低VOCエマルジョン塗料「ハイライトECOシリーズ」発売 ● 塗装用シンナー可溶性トルエン・キシレンフリーのふっ素樹脂塗料「Vフロン#100Hスマイル」発売

